

第61回国際宇宙会議(IAC) プラハ大会におけるJAXA活動報告

※JAXAがIAC大会に一部参加したので、その概要を報告する。

平成22年10月 6日

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

国際部長 田中哲夫

国際宇宙会議 (IAC:International Astronautical Congress)

- 主催：国際宇宙連盟 (International Astronautical Federation: IAF)
国際宇宙アカデミー (International Academy of Astronautics: IAA)
国際宇宙法学会 (International Institute of Space Law: IISL)

- 概要：毎年秋季に開催し、世界の宇宙関係機関や企業、大学等の関係者が参加。各国・機関の宇宙開発計画、学術研究成果の発表の場として、学生や展示参加を含め、全世界から2,000名規模の参加を得る、名実共に世界最大の宇宙関連会議。

JAXA 展示ブース



IAC 会場内



<第61回国際宇宙会議 (IAC) プラハ大会の概要>

- (1) 期間：平成22年9月27日(月)～10月1日(金) (5日間)
- (2) メイン会場：Prague Conference Centre (チェコ共和国・プラハ)
- (3) テーマ：“Space for Human Benefit and Exploration”
- (4) 参加者：約 3,100名(主催者発表)

主なJAXAの参加イベント

○ 9月27日(月)

- 開会式 (10:00 - 12:00)
- 展示施設開会式 (12:00 -)
- プレナリーイベント1: 宇宙機関長パネル (13:30 - 15:00)
- サイドイベント:
ISEB(国際宇宙教育会議)メンバー機関代表と学生との質疑応答 (15:10 - 16:00)



宇宙機関長パネルでのJAXA 立川理事長

○ 9月29日(水)

- サイドイベント: 学生イベントでの JAXA Day (11:00 -18:30)

○ 9月30日(木)

- プレナリーイベント6: Advancing the Global Exploration Strategy (9:00 -10:00)
- 第19回宇宙法模擬裁判大会 (15:30-17:30)

○日時:9月27日(月) 13:30 - 15:00

NASA、ESA、ISRO、FSA、JAXAの各機関長より以下の活動状況の説明があった。

・JAXA 立川理事長

はやぶさの成功、あかつき・イカロスの打上げ成功等、日本の探査プログラムの成果や、ISSでの日本の宇宙飛行士の状況を報告。また、災害監視・環境問題への取り組みなどAPRSAFの活動を紹介。その他、質疑においては地球環境問題への貢献としていぶきの成果などに言及。

・NASA ポールデン長官

冒頭、これまでの科学・地球観測計画における国際協力の重要性を強調するとともに、科学局、探査局、宇宙運用局等の活動を紹介。ISS完成に向けたシャトルフライトの予定(2010年11月、2011年2月)について紹介。

ESA ドーダン長官

ESAと欧州の全てのミッションは、国際協力による成果であると言及。探査、地球観測プログラム活動の近況を紹介。ISSの利用拡大の重要性に言及し、今年5月に延期となったISS利用シンポジウムを2011年初頭に開催すると表明。

FSA ペルミノフ長官

第二世代の低軌道衛星通信網計画やグロナス計画を紹介。今後の重点課題として、ギアナのソユーズ打ち上げ、ISSプログラムの推進、及び大型輸送系開発と深宇宙探査のための革新的推進系技術開発に言及。

ISRO ラダクリシュナン総裁

インドの国際協力プロジェクトとして、グロナス計画との協力、地球観測分野での、米国、欧州、EUMETSATとの協力に言及したほか、今後の月探査におけるロシアとの協力などを紹介。

JAXAの関係する広報・教育活動

○ JAXAブース

テーマを日本の惑星探査として、はやぶさ(1/2スケールモデル)、イカロス(1/64スケールモデル)を中心とした展示を実施。特に、はやぶさのウーメラへの帰還ビデオが好評だった。他国のビジネスブースが多い中、広報展示を主としたJAXAのブースは特徴があり、会期中総計1,500名の来訪者が訪れた。あわせて、産業連携センターが同ブースの展示に参加し活動状況を紹介。

○教育活動

ISEB(国際宇宙教育会議)メンバー機関代表と学生との質疑応答のイベントに参加し、学生イベントでの JAXA Dayでは学生の発表及びJAXAからの講義を実施した。また、プラハ日本人学校での出前授業を実施。JAXAは今年IACに20名の学生を派遣。(日本人学生18名、シンガポール大学2名)

○第19回宇宙法模擬裁判大会 (30日15:30-17:30)

予選を勝ち抜いた学生による最終戦がピルセン市裁判所にて開催され、「弾道飛行による宇宙旅行、宇宙空間の定義、及び損害賠償責任」に関する事例が競われた。JAXAが派遣したアジア・太平洋代表のシンガポール大学が準優勝した。